

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)

第 25 回理事会 議事録

1. 日 時 2020 年 7 月 3 日 (金) 開会 午前 10 時 00 分  
閉会 午前 10 時 50 分

2. 場 所 東京都千代田区内幸町 2 丁目 2 番 3 号 日比谷国際ビル 314  
J A N P I A 事務所内 大会議室

※ J A N P I A 事務所内 大会議室を起点に、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとし、出席者が一堂に会するのと同等の相互に十分な議論を行うことができるという環境を確保したうえで実施 (ZOOM を利用)

3. 出席者

理事長 二宮 雅也 [議長]  
理 事 逢見 直人 柴田 雅人  
監 事 土岐 敦司 柳澤 義一

審査会議委員長 深尾 昌峰

事務局 岡田 太造 (事務局長代行) 鈴木 均 (事務局次長)  
大川 昌晴 (総務部長)

4. 議 案

第 1 号議案 新型コロナウイルス対応緊急支援助成資金分配団体決定について

## 5. 提出資料

資料第1 新型コロナウイルス対応緊急支援助成資金分配団体決定について

資料第2 審査会議で整理された事業一覧

## 6. 議事概要

午前10時00分開会、定款第42条により二宮理事長が議長となり、理事の現在数3名のうち3名が出席しており、本理事会は有効に成立していることを確認した後、開会を宣した。

なお、議事録署名人は、定款第46条第2項により、二宮理事長と土岐監事、柳澤監事となることを確認した。

### (1) 議案審議

#### 第1号議案

岡田事務局長代行より資料第1に基づき、新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業に申請のあった42団体（42事業）について、6月30日開催の審査会議において推薦すべき17団体（17事業）が提示されたため、本理事会にて選定団体の協議を行うこと等の説明がなされた。

続いて深尾委員長より、審査プロセス及び審査結果、推薦する事業についての推薦理由及び、申請金額から減額となる事業についての理由等に関する説明がなされた。

これに対する質疑応答は以下の通り

- （逢見理事）今回の1次公募が緊急支援助成全体においてどのような位置づけとなるのか確認したい。  
（岡田事務局長代行）緊急支援助成は総額50億円であり、うち10億円は2019年度採択事業への追加支援としている。残りの40億円は、状況が刻々と変化することを想定し複数回の公募を実施する予定であり、今回はその1次公募となる。
- （柳澤監事）申請金額から減額する採択事業について、減額により事業実行に支障がでる恐れはないのか、また逆に事業実施体制を超えた金額を申請しているようなリスクはないのか。

(岡田事務局長代行) 減額を検討いただくにあたって、審査の過程では、実行体制と事業計画から予測される実現可能性、それに見合った事業規模となっているかどうかという点を見ていただいた。例えば実行団体数等が 100 団体近くを想定している場合は、それに相応しい体制や事業計画を伴っているかが審査の視点の一つとなる。また、採択された後には、それぞれの団体との間では、より詳細に計画の確認や見直しを実施していく。

(大川総務部長) 申請金額が減額された場合には、実行団体数の想定及び管理的経費も減ることになるが、最終的に助成される額を効果的に活用できるよう事業実施の方法についても各団体とは相談していくことになる。

(深尾委員長) 団体によって減額は厳しいという意見もあるかもしれないが、事業執行能力を踏まえ事業計画を審査してきた。万一、減額された助成金で事業が実施できないということであれば辞退頂くことも想定する必要がある。

➤ (土岐監事) 推薦に至らなかった事業の中でも、新しい視点での取り組み等特筆すべき事業があれば確認したい。

(深尾委員長) 例えば街づくりの視点から課題分析している事業や、子供や食といった重要な視点からアプローチしている事業も多くあった。ただそれらの中には資金分配団体としてというよりは、実行団体に近い事業内容であったり、資金分配団体の要件を備えていない団体であること等から今回理事会への推薦には至っていない。

(大川総務部長) 他に推薦に至らなかった理由として、事業計画における課題設定や対象とする分野等についてより具体化が必要という審査委員からのコメントをいただいている事業も多くあり、そのような団体についてはフィードバックの中で 2 次公募に向けての事業計画のブラッシュアップなど伝えていく予定である。

➤ (逢見理事) 地域ごとバランスについて、昨年度も話題となったが、申請がないエリアや、資金分配団体が現時点では存在しない等の課題への対応はどのように考えていくのか。

(岡田事務局長代行) 審査会議から推薦された 17 団体の中では地域のコミュニティ財団等もあり地域的な広がりが見られた。ただ四国、北陸からは応募自体がなかったため引き続き働きかけをしていきたい。

(鈴木事務局次長) 17 団体のうち、事前に事務局にて個別相談に応じた団体も多く、また地方の掘り起こしを志向して当機構側から働きかけを行った団体からの申請もあった。資金分配団体の空白地域の四国、北陸については、実行団

体が全国枠の資金分配団体の公募に手を挙げて頂けるようサポートしていきたい。

以上の質疑応答の後、決をとったところ、審査会議より推薦された 17 事業（17 団体）を採択することについて異議なく可決承認された。

以上を受けて二宮理事長より、「まずもって 2 週間という限られた時間の中でのすべての事業を審査いただき、活発なご議論のもと、厳正なる審査を経て 17 事業をご推薦いただいたことについては、本日出席の深尾委員長をはじめ審査会議委員各位の当事業への多大なるご支援とご協力に対し改めて感謝申し上げたい」とのコメントがあった。

続いて、本日すでに採択が決議された事業以外に、審査会議にて事業内容の見直し等が必要とされた事業も複数あったとの報告もいただいた中で、この事業の緊急性に鑑み、事業のスピード感や柔軟な対応、また 50 億規模という国民からの期待感を踏まえ、例えば一定の条件を付す等により今回の 17 事業に加えて採択できる事業を検討できないかということについて提案があった。

これに対する質疑応答は以下の通り

- （柴田専務理事）今回採択には至らなかった団体には、昨年度採択された団体もある。今回採択には至らなかった理由が当該団体にとって、2019 年度事業の運営に加えての緊急支援助成事業の実施を重ねることについては、負荷が重いということであれば、その負荷を軽減するための措置を講じれば採択の可能性もあるのではないか。例えば事務局と団体との間で調整が可能であれば内容を精査したうえで採択する方法もある。緊急性の観点から 2 次公募まで待つのではなく、早期に事業着手してもらうような工夫を検討してはどうか。
- （逢見理事）政府の補正予算でも手続きの簡素化、スピード感という声はあるが、一方で公費である以上、適正な管理が求められる。JANPIA も同じことである。採択された 17 団体とそれ以外の団体で選考の過程に公平感、公正性を担保した上での検討が必要となる。
- （土岐監事）審査会議の客観的な審査があるのかが公正性につながる。審査

委員長や事務局から改善点が具体的にあり審査会議の合意があるのであればいいが、そうではない中で理事会の判断で採択する団体を追加するということとなると、手続き面でも公正性・公平性の確保という点で懸念が残る。

- (柳澤監事) 提案の趣旨は理解するが、必要なデュー・プロセスは必要。スピード感が必要だが、実行体制、ガバナンスコンプライアンスの体制等はよく見ておくべきである。採択後の団体に対しても、事後で監査等を行った際に、採択の段階では見過ごされた不正等が万が一でもあればすでに支払った助成金の返還請求をするなどの対応もしっかり考えて進める必要がある。
- (二宮理事長) 検討するにあたっては審査委員の方に緊急支援の規模感、緊急性、理事会の思いを伝え、審査会議の中で推薦頂けるものがあるのか議論をして頂きたい。
- (深尾委員長) 採択には至らなかった 25 事業の中でも審査会議において推薦レベルと考えるかどうかのボーダーラインからの距離にはかなりばらつきがあるため、どこまでを推薦しましょうとか安易に整理がつけられるものでもないと考えている。公正・公平な視点の重要性について皆様からお話をいただいたので、理事会のメッセージについても審査委員各位には伝えつつも、申請事業の内容については今一度、審査会議を開催し検討するという事で理解をした。
- (二宮理事長) 緊急支援助成という性質を踏まえて、理事会としてもより踏み込んだ対応を検討していくべきではないかという観点からご提案をさせていただいた。深尾委員長をはじめ審査委員の皆様には大変ご負担をお掛けすることになるが、理事会での議論を審査委員の皆様にもお伝えをいただいて、推薦をいただける事業についてご検討願いたい。

以上の質疑応答の後、第 1 次公募で採択には至らなかった団体について、再度審査会議において検討し、推薦すべき事業があればこれを理事会に推薦をいただき、理事会にて審議をすることが確認された。

以上をもって、第 25 回理事会の議事が全て終了したので、議長は議場にその協力を感謝し、午前 10 時 50 分、閉会を宣言した。

上記の議事の経過およびその結果を確認するために、議事録署名人は、次に記名押印する。

2020 年 7 月 10 日

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

議事録署名人（理事長）                      二 宮 雅 也                      ⑩

議事録署名人（監事）                      土 岐 敦 司                      ⑩

議事録署名人（監事）                      柳 澤 義 一                      ⑩